

## 4. 鹿児島黒牛の取り組み

豊 智行（鹿児島大学農学部）

### 1. ブランドの定義と規模

#### 1) ブランド化への取り組みの歴史

昭和 61 年に鹿児島黒牛黒豚銘柄販売促進協議会を設立し、同時に鹿児島黒牛と命名するようになった。それ以前は鹿児島牛肉のネーミングであった。平成元年に商標マークを作製し、平成 9 年 11 月 21 日に特許庁への商標登録がなされた（資料 1）。



資料 1 鹿児島黒牛商標マーク

#### 2) ブランド推進主体の概要

鹿児島黒牛の推進組織は鹿児島黒牛黒豚銘柄販売促進協議会である。会員は JA 鹿児島県経済連と南九州畜産興業(株)である。事業推進に必要な会議の開催、鹿児島黒牛・黒豚の広報宣伝、鹿児島黒牛・黒豚の銘柄販売店育成等を行っている。事業遂行上必要な経費は会員の負担金、県の助成金により調達している。

協議会の事務局は JA 鹿児島県経済連肉用牛課に置かれている。販売促進活動として、首都圏で行われる畜産フェア等に参加し、鹿児島黒牛の知名度のアップや PR 活動、販促資材（シール、のぼり、パネル、ポスター、チラシ等）の提供等も行っている。安心を担保するため、JA 鹿児島県経済連独自の個体識別認証システムがある。

#### 3) ブランドの定義

JA グループ鹿児島に属する畜産経営で肥育された黒毛和種である。特に肉質等級の定めはない。鹿児島黒牛ネーミング販売の使用枠は、(株)JA 食肉かごしま、南九州畜産興業(株)、大阪卸売市場、京都卸売市場、JA 全農ミートフーズ(株)の枝肉、部分肉販売先である。

#### 4) 肥育経営数、肥育出荷頭数、ブランド名称付与頭数

JA グループに属する約 400 戸の肥育経営体からの黒毛和種の内、平成 21 年度は(株)JA 食肉かごしまと南九州畜産興業(株)でと畜処理された 28,000 頭、大阪卸売市場と京都卸売市場

に出荷された約2,000頭の合計約30,000頭が鹿児島黒牛ブランド名称の付与対象となった。

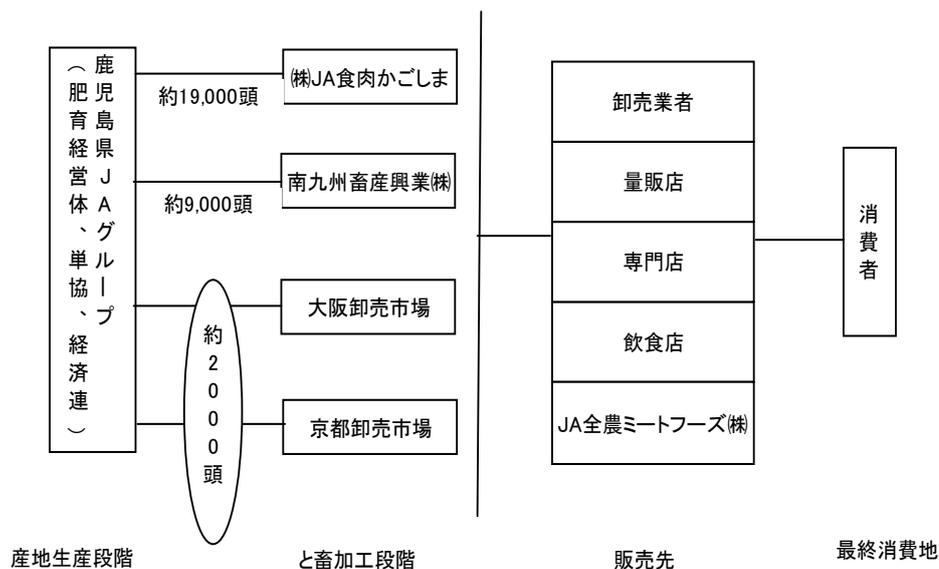
## 2. 生産・流通・販売経路

図1に鹿児島黒牛の流通経路（平成21年度）を示している。鹿児島黒牛の多くが㈱JA食肉かごしまと南九州畜産興業㈱を介して、食肉卸業者や量販店、飲食店等に流通していく。

食肉卸売市場における入荷和牛頭数全体に占める鹿児島県産和牛頭数は、平成21年の大阪卸売市場では17,714頭中1,998頭（11.3%）で出荷都道府県第3位、平成21年の京都卸売市場においては6,998頭中1,974頭（28.2%）で同第1位である。両市場併せて約2,000頭はJA共販外の出荷と考えられ、その場合は鹿児島黒牛の付与対象から外れるが、それを差し引いても鹿児島黒牛の出荷先卸売市場でのシェアは高い。

鹿児島黒牛の指定店（後述）における販売量（平成21年度）は合計5,212.7トンあるが、地域別割合は多い地域から近畿40.1%、九州37.3%（うち鹿児島は9.3%）、中国・四国11.3%、それ以外の地域11.3%である。近畿と九州を中心とした西日本での販売が多い。

図1 鹿児島黒牛の流通（平成21年度）



注) 聞き取り調査より作成

## 3. ブランド化の推進手法と成果

### 1) 生産段階

全頭黒毛和種を肥育する(有)畠久保牧場（指宿市）・(有)上久保畜産（鹿児島市喜入）は、常時肥育頭数4,500頭程度、牛舎の敷地面積8haのJAグループ鹿児島の中でも最大規模の肥育経営体である。JAいぶすきとJA鹿児島県経済連の担当者、獣医師を含め月1回の実績検討会を開催し、飼料給与マニュアルの確認や見直しを行うことにより肉質及び枝肉価格の全体的な向上が目指されている。これらの取組みが実を結び、平成21年には第33回

九州管内系統和牛枝肉共励会で農林水産大臣賞金賞を受賞した。

## 2) と畜加工段階

㈱JA 食肉かごしまの南薩工場は平成 16 年 1 月に IS09001、平成 16 年 4 月に生産情報公表 JAS 規格小分業者、平成 20 年 2 月には IS022000 を取得し、安全・安心の確保に努めている。公的な検査はもとより自主検査の徹底、JA 鹿児島県経済連の食品総合研究所により定期的な検査・チェックを行っている。南薩工場は、タイとマカオへの輸出認定工場であるが、現在はアメリカ、香港、シンガポールへの輸出認定の取得に向けて準備中である。

## 3) 販売の取り組み

### (1) 指定店制度

認定基準は、①鹿児島黒牛のネーミングで表示販売し、常時品揃えしていること、②年間の購入量が販売店では 1,500kg 以上、飲食店は 300kg 以上、県内の飲食店・ホテル・旅館等は概ね 200kg 以上（メニューに「鹿児島黒牛」を明記すること）である。指定店のうち鹿児島黒牛の名称で販売している店舗を販売指定店、鹿児島黒牛以外の名称で販売している店舗を取引指定店と呼んでいる。

全国の指定店 553 店舗のうち、九州 189 店（うち鹿児島県は 131 店）、中国・四国 116 店、近畿 106 店であり、西日本に多く分布している。

### (2) 小売店

JA 鹿児島県経済連の関連会社である（株）A コープ鹿児島は、鹿児島県下全域に A コープ 67 店舗、農産物直売所「鹿児島ふるさと物産館」1 店舗の計 68 店舗を有している。輸入牛肉は一切扱わず、和牛は鹿児島県産のみを鹿児島黒牛の名称で販売している。生産者の顔の見える販売（例えば生産者の写真を掲示して店頭での販売）と地産地消（例えば、チラシの中で鹿児島育ちであることをアピール）により、鹿児島黒牛の普及拡大を行っている。

小売店舗のみならず物流機能、加工機能、パッキング機能を有する生活物流センターも有しているが、小売でありながら牛、豚、鶏の加工を行いはじめたのは鹿児島では㈱A コープ鹿児島が最初であった。

他にも JA 鹿児島県経済連の直売所「おいどん市場」が鹿児島市内にあり、鹿児島黒牛が販売されている。

### (3) 飲食店

鹿児島市内には JA 鹿児島県経済連のアンテナショップ「華蓮 鹿児島店」、「華蓮 Jr」、「食のオアシス Zino」、消費地には「華蓮 博多店」と「華蓮 大阪心斎橋店」があり、鹿児島黒牛を使用したメニューが提供され、人気を博している。

㈱島久保牧場・㈱上久保畜産は、平成 18 年 7 月に鹿児島市内に焼肉料亭「□ SOU」をオープンした。鹿児島黒牛の中でも、自己の牧場で肥育した未經産の雌牛で A 4 等級の BMSNo.

6～7の肉のみを取り扱っている。オープンしたのは、直に消費者からの評価を聞いたかったためである。

#### 4) ブランド化の基盤

鹿児島黒牛は県内の(株)JA 食肉かごしま、南九州畜産興業(株)でと畜・加工までする頭数が多いため、それだけ県内に帰属する牛肉の付加価値が大きい。また、頭数が多いために JA グループ鹿児島は卸売市場での価格形成に影響力を発揮できる有数の産地であると考えられる。

注) このレポートは平成 22 年 11 月時点の調査データから作成した。